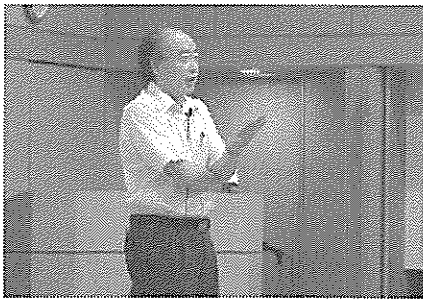


II さくらサイエンスプラン高校生特別コースII

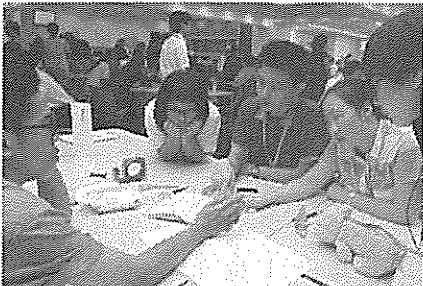
中国・ベトナムの高校生に小林誠博士が特別授業

ノーベル物理学賞(2008年)を受賞した小林誠博士が、中国・ベトナムから来日中の高校生を前に、8月20日、文京学院大学女子高校(東京都文京区)で特別授業を行った。特別授業に招かれたのは、科学技術振興機構(JST)のさくらサイエンスプランにより、中国・ベトナムの各政府関連機関から選ばれた優秀な高校生と、文京学院の高校生たち。小林博士は自身の専門分野である素粒子理論に基づき、高校生たちに、中性子・陽子・電子の関係をはじめとする「物質と反物質」というテーマで講演した。ノーベル賞受賞者から直接、話を聞くという貴重な体験であったためか、講演内容は専門的で難解であったにもかかわらず、高校生たちは真剣に耳を傾けていた。

質疑応答ではテーマに則った質問が次々とあげられ、高校生たちは、小林博士の話を十分に理解している様子だった。小林博士はランチの時間にも同席し、気さくに高校生たちと交流、それぞれの出身地を尋ねるなど、会話を楽しんでいた。



講演する小林博士



エッグドロップコンテストで紙のデザインを検討



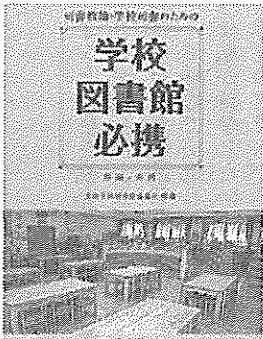
卵が壊れず成功した喜びのチーム

午後には中国・ベトナム・日本混合チームで「エッグドロップコンテスト」が開催された。A3サイズのケント紙1枚とテープを使って卵をくるみ、高所から落とし、卵が壊れないように紙をうまく使ったチームが高得点を得る、というコンテスト。各チームが趣向をこらしたデザインを考えだし、高校生たちの優秀さ、ユニークさが垣間見えた。実際に各グループの卵を落とす際には、同じチームの生徒のみでなく他のチームやスタッフなども、固唾を呑んで見守り、見事、成功した場合には、共に喜びを分かち合っていた。アジア3カ国の高校生がアイデアを出し合い、チャレンジしたことで、高校生たちは更に交流を深めることが出来た。アジアの若い優秀な人材が日本を初めて訪れ、日本の最先端の科学技術に触れ、将来的に科学者としてアジアのみならず世界で活躍してもらうことを目指し、さくらサイエンスプランは2014年にスタートしたが、着実に草の根運動的な活動が全国で展開されている。

司書教諭・学校司書のための

「学校図書館必携」理論と実践

昨年6月に学校図書館法が改正され、これにより司書教諭に加え、学校司書が法律上に位置付けられた。司書教諭・学校司書のための新書「学校図書館必携」理論と実践」が刊



一冊に悠光堂から発刊された。公益社団法人・全国学校図書館協議会が監修、学校図書館の標準がわかりや

すく實務に役立つ学校図書館の標準が一冊にまとめられている。B5判・256ページ、定価4,000円(税別)。

日本工芸会

第62回「日本伝統工芸展」600点一堂に

日本の優れた伝統工芸の保存と後継者の育成を目的に、公益社団法人・日本工芸会が毎年開催する国内最大級の公募展「第62回日本伝統工芸展」が9月16日から28日まで、日本橋三越本店で開かれる。

陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸7部門の重要無形保持者の最新作と一般公募作品より厳選された審査を経て選ばれた入選約600点を一堂に展覧する。